

組織目標評価報告書（令和3年度）

部局名:

薬学部

部局長名:

三好 伸一

目標・取組	目標・取組の実施状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)
<p>①教育領域</p> <p>【入試の実施状況】 ①昨年度に引き続き、志願者確保に向けて、薬学部教員が高校訪問を行い、入試説明、薬学部紹介、更には卒業後の可能な進路等について説明を行うとともに、高校の進路指導の教員に対し、薬学科、創薬科学科の特色等を説明する。特に、創薬科学科は、理系に興味のある生徒に幅広く適していること、将来の新薬開発を担う人材育成に直結していることを生徒並びに進路指導の教員に啓蒙していく。 ②総合型選抜における設問では、受験生の考察力を計ることができるよう工夫する。 ③面接の妥当性の検証あるいは改善の必要性等を見極めるため、入学者の動向分析を行っていく。</p> <p>【教育】 ①授業参観(撮像視聴を含む)により教員間のピアレビューを実施する。 ②メディア授業の強化を含め、教員の教授法の見直しと自己評価を実施する。 ③第2期薬学教育第三者評価(分野別認証評価)を踏まえ、組織的なPDCAを実施する。 ④遠隔講義システムの活用を推進する。 ⑤「薬学研究入門(研究室滞在型授業)」(1・2年次生)を引き続き開講する。 ⑥大学院入学試験および薬剤師国家試験の合格率向上への取り組みを実施する。 ⑦各種サポートが必要な学生(病気、障害、不登校等)の学習・単位修得状況を把握し役立てることで、学生支援体制を強化する。</p> <p>【国際共同による教育】 ① COVID-19の拡大により昨年度は中止した短期海外派遣/受入プログラムの再開に向けて、協定校・協定機関と情報交換を行う。 (1) キャンパスアジア事業「先端医療応用コース(薬)(成均館大学)」 (2) 高度先導的薬剤師養成事業「海外研修プログラム(サン・カルロス大学)」 (3) 医療系キャンパス「多分野医療系学生:医療連携グローバル人材育成プログラム」 (4) キャンパスアジア事業「先端医療応用コース(薬)(成均館大学)」短期受入 ② JSTさくらサイエンスプラン短期受入事業(サン・カルロス大学)は申請を見送る。</p> <p>【外国人留学生の受入状況】 ①薬学部(創薬科学科)に2022年度も私費外国人留学生の受入れを目指すとともに、在学中の私費外国人留学生(2019年度入学:3名、2020年度入学:2名)の就学支援を組織的に行う。</p>	<p>教育領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</p> <p>【入試の実施状況】 ①コロナ禍の難しい状況ではあったが、現地対面、ZOOM開催併せて、計10校を対象に、入試説明及び学部紹介を実施することができた。内訳は、岡山県内6校、香川、広島、兵庫、山口各1校で、県立、私立各5校であった。創薬科学科の志望倍率も上昇してきており、本活動が徐々に効果を発揮しているものと思われる。引き続き、同活動により薬学の特色について啓蒙していく。 ②総合型選抜における設問では、将来の希望を聞くのではなく、受験生の経験に基づいた設問とし、自身の意思、考察力を計るよう工夫した。 ③入学後の成績等について、入試区分も含めた追跡調査を開始した。数年間、調査を継続し、面接の方式、入試区分等のあり方について議論したい。</p> <p>【教育】 ①教員の教授法の向上のため、授業参観を励行し、教員間のピアレビューを実施した。 ②撮像データやMoodle システム等を利用したメディア授業を強化することで教育体制を充実させるとともに、教員の教授法に関する見直しと自己評価を実施した。 ③薬学教育第三者評価(分野別認証評価)及び岡山大学機関別認証評価に向けた自己点検・評価を実施することにより、組織的なPDCAを行い教育の質の保証を行った。 ④遠隔講義システムを鹿田地区と津島地区にまたがる高年次生授業等に活用した。 ⑤学生の研究指向性を高めるため、1・2年生が研究室において短期間の基礎実験・研究を行う「薬学研究入門」の開講を継続した。 ⑥大学院入学試験(博士前期・後期課程)、及び薬剤師国家試験の合格率向上に関する取り組みについて、これまでの方法の検証と改善を行った。 ⑦各種サポートが必要な学生(病気、障害、不登校等)の学習・単位修得状況を教務委員会・学生総合支援委員会が連携して把握し情報共有することで、学生支援体制を強化した。</p> <p>【国際共同による教育】 ① 下記の短期海外派遣/受入プログラムに関し、協定校・協定機関との情報交換に務めた結果、COVID-19の世界的な感染拡大により実施できない状況が当面は続くとの見解で一致し、関係国の出入国規制の緩和の状況を見て協議を再開することとなった。 (1) キャンパスアジア事業「先端医療応用コース(薬)(成均館大学)」 (2) 高度先導的薬剤師養成事業「海外研修プログラム(サン・カルロス大学)」 (3) 医療系キャンパス「多分野医療系学生:医療連携グローバル人材育成プログラム」 (4) キャンパスアジア事業「先端医療応用コース(薬)(成均館大学)」短期受入 ② JSTさくらサイエンスプラン短期受入事業(サン・カルロス大学)は実施の目的が立たないため申請を見送った。</p> <p>【外国人留学生の受入状況】 ①薬学部(創薬科学科)に在学中の私費外国人留学生(2019年度入学:3名、2020年度入学:2名)の就学支援を引き続き組織的に行った。</p>
<p>②研究領域</p> <p>【研究の実施体制ならびに実施状況】 ①連携大学院である国立医薬品食品衛生研究所とのプロジェクトを遂行するとともに、大学院博士後期課程に進学する学生・社会人を募り、新たな共同研究を開始する。 ②薬効解析学研究室(上原教授)と国立薬理部門との連携プロジェクトに加えて、新たに環境省国立水俣病総合研究センターとの共同研究体制を敷き、今後の発展に繋げる。 ③上記の取り組みをHPなどで紹介し、成果を学会発表や学術論文として公表し、多様な大学院生を引き続き募り、リカレント教育を充実させる。</p> <p>【研究資金の獲得状況】 ①科研費を含む外部資金獲得に関して、引き続き当該教員全員(100%)が応募するよう努めつつ、採択率の更なる向上を目指す。また、応募件数も教員当たり1.0以上となるよう、複数の科研費に応募する教員数を増やすように、教員会議を通じてアナウンスする。 ②採択率向上を目的とし、有志教員による調査の添削も引き続き実施する。</p> <p>【国際共同による研究の状況】 ①博士後期ダブル・ディグリーでの国際共同研究を推進する。</p> <p>【女性・外国人研究者の受入状況】 ①博士後期課程でのハイフォン医科薬科大学教員1名(女性)および博士課程入学志望のハイフォン医科薬科大学教員1名(女性)との国際共同研究を推進する。</p> <p>【外国研究機関における研究従事状況】 ①インド国コルカタ市のコレラ及び腸管感染症研究所に教員3名が常駐することにより、下痢症感染症に関する国際共同研究を継続して推進する。 (再掲:医歯薬学総合研究科(薬学系))</p>	<p>研究領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</p> <p>【研究の実施体制ならびに実施状況】 ①国立医薬品食品衛生研究所に所属する学生が本学大学院入試を受験し、合格した。 ②薬効解析学研究室(上原教授)と国立医薬品食品衛生研究所薬理部門及び環境省国立水俣病総合研究センター 基礎研究部との共同研究体制を開始した。 ③上記の取り組み成果に関して原簿論文発表や学会発表を介して、学内外へアピールするとともに、リカレント教育の一環として、6月に薬学部公開講演会で紹介した。</p> <p>【研究資金の獲得状況】 ①科研費を含む外部資金獲得に関して、退職者を除く当該教員の100%が応募し、採択率の更なる向上を目指した。また、応募件数も教員当たり1.0以上となるよう、複数の科研費に応募する教員数を増やすように、教員会議を通じてアナウンスし、応募件数は退職者を除く教員当たり1.59となった。 ②採択率向上を目的とし、有志教員による調査の添削を実施した。</p> <p>【国際共同による研究の状況】 ①博士後期ダブル・ディグリーでの国際共同研究を継続し、実施した。</p> <p>【女性・外国人研究者の受入状況】 ①博士後期課程でのハイフォン医科薬科大学教員1名(女性)との国際共同研究を継続実施し、博士課程10月入学のハイフォン医科薬科大学教員1名(女性)との国際共同研究を開始した。</p> <p>【外国研究機関における研究従事状況】 ①インド国コルカタ市のコレラ及び腸管感染症研究所に設置の共同研究センターに教員2名が常駐し、下痢症感染症に関する国際共同研究を継続して実施した。また、同研究所において、国立感染症研究所、広島大学、及び法政大学との複数機関共同研究も開始した。</p>
<p>③社会貢献(診療を含む)領域</p> <p>【国際交流・協力】 ①成均館大学(韓国)、ハイフォン医科薬科大学(ベトナム)、サン・カルロス大学(フィリピン)との連携をさらに深めるとともに、交流協定(新規)締結に向けてバンメート大学(ベトナム)との協議を進める。</p> <p>【地域社会との連携、社会貢献】 ①薬剤師を対象とした薬学部公開講座の開催等を通じて、薬学に関する最新情報の提供と知識の向上・啓蒙に努める。 ②地域の職能団体等と連携した卒前・卒後教育の実施、岡山県薬剤師研修協議会と連携した各種薬剤師研修事業への参画を推進する。また、中高生の薬学への理解を深めるための連携事業を推進する。 ③各種講演会等にあわせて薬用植物園の一般公開を実施し、薬学関連の科学に対する社会的な理解を進める機会とする。</p> <p>【その他】 ①同窓生の交流を推進するため、岡山大学ホームカミングデーにおいて、卒業生と在学生が交流する機会を設ける。</p> <p>以上の各種事業をCOVID-19の流行状況に留意しながらBCP等に基づいて進める。</p>	<p>社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</p> <p>【国際交流・協力】 下記の事業の実施を計画したが、COVID-19の世界的な感染拡大による海外渡航の制限があったため実施できなかった。 ①成均館大学(韓国)、ハイフォン医科薬科大学(ベトナム)、サン・カルロス大学(フィリピン)との連携をさらに深めるとともに、交流協定(新規)締結に向けてバンメート大学(ベトナム)との協議を進める。</p> <p>【地域社会との連携、社会貢献】 ①薬剤師を対象とした薬学部公開講座は、COVID-19の感染拡大の懸念から今年度の実施を断念した。 ②地域の卒後教育および中高生を対象とした連携事業は、高校生を対象としたオンライン講演会として実施し、県内外から155名の参加を得た。 ③薬用植物園の一般公開はCOVID-19の感染拡大の懸念から今年度の実施を断念した。</p> <p>【その他】 ①岡山大学ホームカミングデーにおける同窓生の交流、卒業生と在学生の交流は、COVID-19のため実施できなかった。</p>
<p>④管理運営領域</p> <p>【部局運営体制の改善強化】 ①本学や本学部の課題について、関連する委員会等と共有するとともに、解決に必要な情報の継続的な発信を推進する。</p> <p>【部局組織の活性化】 ①人事を含む将来計画に基づき、研究分野の整理と統合を推進し、教授・准教授・助教の体制構築に努めるとともに、優秀な若手人材の積極的な確保に努める。 ②主要委員会等の委員として、若手教員や新任教員等を適切に配置することを目指す。</p> <p>【ダイバーシティの推進】 ①女性教員のさらなる採用や昇進等の可能性に関して引き続き検討する。</p> <p>【効率的・戦略的な予算配分・執行】 ①省エネ意識の喚起等によって経費節減を図るとともに、各委員会等の実施計画等を精査し、引き続きより効果的な予算執行を目指す。</p> <p>【安全衛生に対する配慮】 ①適切な管理活動計画を立案し、それに基づいた適正な安全衛生活動を推進する。</p> <p>【施設整備の推進】 ①安全・安心な教育研究環境を確保するため、現有施設の点検および機能改善整備を推進する。</p> <p>【法令遵守の徹底】 ①情報セキュリティ、適切な会計処理、適正な研究活動等に関して、継続的に法令遵守について啓発するとともに、講習やwebシステム等による確認と周知を図る。</p>	<p>管理運営領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</p> <p>【部局運営体制の改善強化】 ①本学や本学部の課題について、関連する委員会等と共有するとともに、解決に必要な情報の継続的な発信を行った。</p> <p>【部局組織の活性化】 ①人事を含む将来計画に基づき、研究分野の整理と統合を推進し、教授・准教授・助教の体制構築に努めた。また、優秀な若手人材の積極的な確保に努め、複数名の若手教員の採用を決定した。 ②主要委員会等の委員として、引き続き、若手教員や新任教員等を適切に配置した。</p> <p>【ダイバーシティの推進】 ①女性教員のさらなる採用や昇進等の可能性に関して、継続して検討した。</p> <p>【効率的・戦略的な予算配分・執行】 ①省エネ意識の喚起等によって経費節減を図るとともに、各委員会等の実施計画等を精査し、より効果的な予算執行を行った。</p> <p>【安全衛生に対する配慮】 ①適切な管理活動計画を立案し、それに基づいた適正な安全衛生活動を推進した。</p> <p>【施設整備の推進】 ①安全・安心な教育研究環境を確保するため、現有施設の点検および機能改善整備を推進した。</p> <p>【法令遵守の徹底】 ①情報セキュリティ、適切な会計処理、適正な研究活動等に関して、継続的に法令遵守について啓発するとともに、講習やwebシステム等による確認と周知を図った。</p>